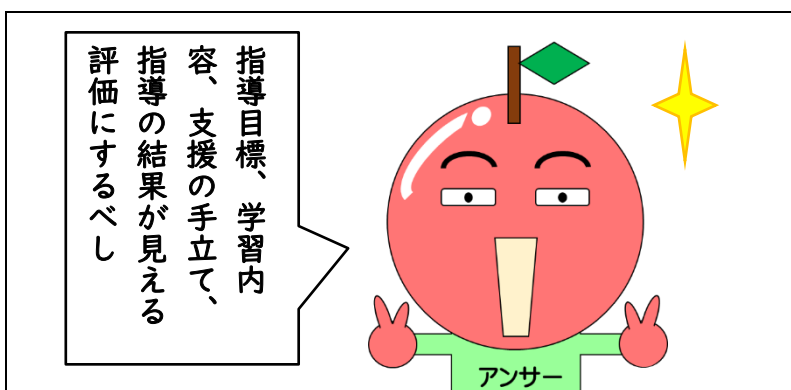
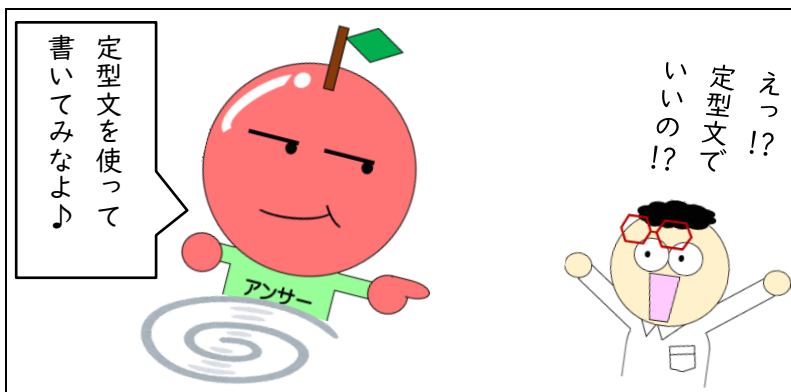
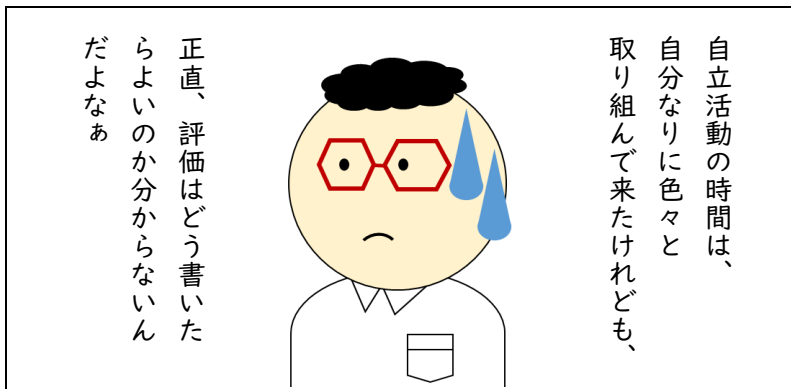
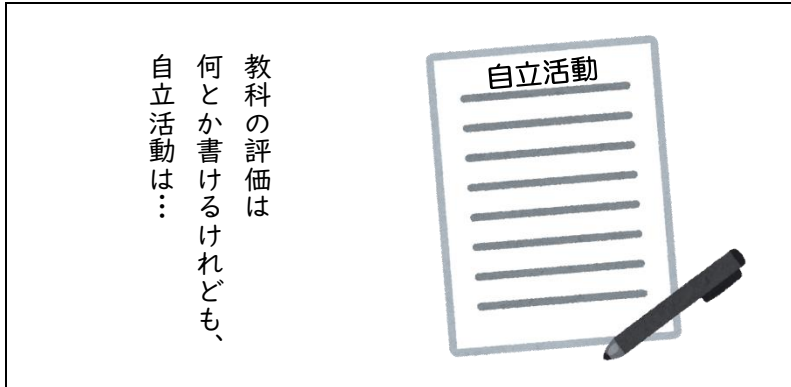


Q16. 自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいのかわかりません。



慣れるまでは定型文で書く

- ~をねらい、 (指導目標)
~に取り組んだ。 (具体的な学習内容)
その結果、~することで、 (支援の手立て)
~できるようになった。 (できるようになったこと及びその程度)

自立活動における学習評価は、実際の指導が個々の指導目標（ねらい）に照らして、どのように行われ、子供がその指導目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにするものです。学習評価の書き方に悩まれている場合、慣れるまでは上記の定型文で書いてみてはどうでしょうか。

例：自閉症のある子供に対する自立活動の評価

集団活動において不安が大きくなったときに、教師に自分の気持ちを表現できることをねらい、感情の表現方法に関する学習に取り組んだ。その結果、様々な感情の表現方法が記載されている「気持ちカード」を用いることで、自分から学級担任に不安な気持ちを伝えることができるようになった。

評価が書きにくいのは指導目標見直しのサイン

- 指導目標が児童生徒の実態に合っていないことが原因で、評価が書きにくい場合があるので、指導目標を見直してみましょう。
- 具体的で観察可能な行動を指導目標に設定することができれば、指導記録の観点が明確になり、評価しやすくなります。

自立活動の指導は、個別の指導計画を作成して行いますが、計画は当初の仮説に基づいて立てた見通しであり、子供にとって、適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになっていくものです。したがって、子供の学習状況や指導の結果に基づいて、適宜修正を図る必要があります。

評価が書きにくい場合、指導目標が児童生徒の実態に合っていない可能性がありますので、思い切って指導目標を見直してみましょう。具体的で観察可能な行動を指導目標に設定することで、どの程度できているか（例：〇〇回取り組んで〇回できた、〇〇%できた）という指導記録をとりやすくなります。それが、自立活動における学習状況の適切な評価や、具体的な指導の改善につながります。

よく一緒に読まれているQ

Q11 「自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。」

Q28 「個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。」

[目次に戻る](#)